

# 憲法週間&男女共同参画週間 「市民の集い」

6月8日(日)、文化ホールで『2014憲法週間&男女共同参画週間市民の集い』が、開催されました。当日は開場時刻前から、受付付近は長蛇の列となり、文化ホールは500名を超え満席となりました。

たくさんの方の参加者の中、小さな子どもさんと一緒に参加された、子育て中のお母さんから、久しぶりにゆっくり映画鑑賞ができたといった喜びの感想をいただきました。

映画「人生いろいろ」

を観て

男女を問わず、物事は自分で決めて行動するのが当たり前の事だと私は思っていました。ところが、それが許される事なく何

十年も過ぎてきたのが、この映画の主人公の薫です。「ひと花咲かせたい」という気持ちが夫の反対

にあり、葛藤を繰り返しながらも貫かれ、見事に花を咲かせました。葉っぱで、料理する人、食す人・収穫する人を満たし、町まで潤いました。その様子を見て夢を実現させるのに年齢は関係ないと勇気づけられました。

この貴重な時間は、素晴らしいママの皆様の一時的保育がなければ得られませんでした。映画を観て高揚して娘を迎えに行くと、楽しい時間を過ごした娘の笑顔が待っていました。親子で充実した日を過ごせたことに感謝しています。

(小宮 典子)



## 校区総会

5月に、砂川・西信達・雄信・樽井・新家校区において、総会・研修会が開催されました。当日参加された各校区の委員のみならず、長年地域活動に取り組んでいる方、今年初めて自治会役員をされる方などさまざまです。

今年の研修内容は、「おしゃべりからはじめるイイ関係」と題して、委員のみなさんにこれまでの人生を、よかったこと、辛かったことをふりかえり、参加者同士で話し合ってもらいました。

### ◆参加者の感想◆

- \*人は対話することが大事であると思いました。
- \*世代の違う方とお話するチャンスができ、楽しかったです。
- \*「人権」と聞くと、堅苦しいイメージがありましたが変わりました。「人と話す」のは大事。



今日初めて会った人とも、意外とはずんだおしゃべりができました。

\*未来を担う子どもたちを中心に、学校↓保護者↓家庭↓地域は、すべて輪のようにつながっていることがわかりました。

人権のまちづくりを進める中で、今後も地域の人がつながられる機会をつくってまいります。

## 編集後記

私たちの“きずな新聞”を通じて、皆様に身近な事を感じ取っていただければ幸いです。各校区の催し、市との関わり、開催行事なども“きずな新聞”を見て、聞いて自分の事のように理解していただきたいと思います。これからも感想を聞かせていただき、多くの方から知ってもらえる新聞になることを願って、委員一同勉強をしてまいります。

(企画実行委員会 編集員)

**募集中!** じんけん写真・標語を募集します  
◆◆テーマは絆(きずな)◆◆

今年もイオンで人権作品展を開催します。(12月3~7日)人と人の結びつきを感じる、心あたたまる写真・標語を募集します。

# きずな

第7号  
2014年10月

<発行>  
泉南市人権啓発推進協議会

## 非核平和の集い 平和への第一歩...

“ありがとう” “ごめんなさい” から始めよう

8月17日(日)、文化ホールにおいて非核平和の集いを開催しました。一部では、市内在住の現在93歳、85歳のお二人に戦争体験を発表していただきました。

二部では、広島から来ていただいた大島久美子さん(ソプラノ歌手)と森須奏絵さん(ピアニスト)による平和コンサートを行いました。歌の合間の語りでは、『8月6日』という日は、広島だけでなく世界中の人々にとって、いつまでも忘れない日でなければ』といった気持ちが出められていました。また、数多く歌っていた曲の中、「死んだ男の残したものは」(作詞:谷川俊太郎)は、戦争の辛さを知っている人、知らない人にとっても、心を揺さぶられる歌詞でした。



大島久美子さん  
(ソプラノ歌手)

戦争で亡くなった兵士たちは、自分の命を犠牲に、祖国のために戦ったのでしよう。しかし、残したものは、「こわれた銃」と「ゆがんだ地球」。戦争がどんなに愚かなものかを、この歌詞からも考えさせられます。戦後、復興を遂げ、現在を生きる私たちは、戦争のない輝く未来を、永遠に残していかなければならないと思いました。

## わたしの戦争体験記



「ボットン! あ、冷たい」これが、私が約70年間持ち続けて来た体感記憶です。当時、まだやっと7才だった私は、何か嫌な臭いのする、天井が穴だらけで空が見える、まるで鉄サビの塊りの様な貨物列車の中にいました。片方の手を母にぎゅうと握られ、もう一方を、上の姉の遺骨の白い箱を首から下げていた下の姉に握られて、親子三人が絶対に離れる事がない様に、お互いの身体を、母の腰紐みたいな物で結び付けた姿勢で、ずっとずっと立ってしままで…。狭い車中で、ぎっしり詰った人・人・人の中で身動きひとつ出来ずに、首に雨の濡を受けながら、同乗していた人達みんなが「汽車には乗れたものの、いったい何処に向って走っているのか?」と思いつつながら、私も、不安な気持ちでいっぱいだった事を今でも鮮明に憶えています。思い起こせば、昭和20年8月15日、この日は、当時の日本人が忘れる事の出来ない、第2次世界大戦終結の日です。その日を私達家族は、満州は奉天(現在は中国の瀋陽)で迎えました。たしか、あの日は、カンカン照りの暑い日だった事を思い出します。あの日の夕方、何時もより随分早く、お役所から帰って来た、いつもとてもやさしかった父の顔が、何時にもなく、とても怖い顔に見えたのを、しっかりと覚えています。そんな父が、母と私達娘三人を、応接間に呼び込みテーブルを囲んで椅子に座らせて話をしたのだ。『日本は今日戦争に負けてしまった。これからは家族みんながずっと一緒に居られるかどうか分からない。もしかしたら分らない事がある。でもそんな事家族がバラバラになるかも知れない。もしそんな事が起きたらそれぞれが日本の、岐阜の実家を目指して帰る様に…。そしてみんながそこで集まる様にしない。そして、その途中で、どうしても、どうにもならない事が起こった時には、このピストルを耳の上に当てて、引き金を引く様に…。日本人として、恥かしい生き方は決してしないように。』と言って、テーブルの上にピストルを置いたのだそうです。

# 高槻市を訪ねて～

## 校区フィールドワーク

今年度は“人権のまちづくり”について、取り組もうということで、高槻市へ行き、まちづくり協会の方にお話をお伺いしました。参加者の河部さんから感想をいただきました。

6月3日(火)に開催されました2014年度校区人権協フィールドワークに初めて参加させていただきました。

午前中、高槻市人権まちづくり協会の方から取り組みについてお話を聞いた後、区内を案内していただきました。午後からはコカ・コーラ京都工場で、企業における社員のへの人権研修のあり方についてお話を伺うことができました。

高槻市人権まちづくり協会の方のお話で、『地域と地域以外の人が出会い豊かなつながりをつくる』ことが大切。性格や価値観、生まれた場所や生活環境の違いが出会い、お互いに絆を深めていくことで、違いが認め合える社会。人権が大切にされる社会につながる』と語られた内容について、すごく共感でき、また印象に残りました。

私は今、地元地域で「孤立しない・させない・支え

が、いつもとても優しく、大事にしてもらって感謝している。日本が戦争に負けて、世の中は変わると思いますが、人の情けは変わらないうが、これからは、恩返しのためにも、つもりでみなさんが日本に帰れる日まで一生懸命面倒見させてもらいます。」と涙ながらに話してくれた。と云う事を母から聞いたのでした。父が居なくなると官舎を出なければならなくなった私たちが、行くあてがなかったのですが、夜になるのを待ちかねて、馬が引く荷車に乗せられて、李さんのお姉さんの家に連れて行ってもらい、随分長い間、滞在させてもらいました。その間に郊外に空き家を探してきてくれ、住まわせてくれたり、食べ物運び込んでくれたり、暴徒から逃がしてくれたり、とても口では言い表せない程のお世話になった事を憶えています。そして終戦から丸一年後に、「やっ」と瀋陽の駅から貨物列車に乗ることができたのも、全て李明開さんのおかげなのよ。」と今は亡き母は何時も昔を懐かしむように話をしてくれたのでした。父も母も今はもう亡き人となり、戦争の頃の苦労話など、遠き昔の事として聞く事もなくなりました。今、この中での話しは、割愛せず、次世代に語り継ぐ事が大切なのではないかなあ。と思う今日この頃です。

追伸、中国の李明開さん！あなたがもしまだ生きておられるのなら、私たち家族は、心から「ありがとうございます」とお礼申し上げます。



障がいの方が運営するカフェでお話を聴き、昼食もいただきました。

## 親に学ぶ子ども

よく考えてみると、当然のことであり、特にとりたてて話題にするほどのことでもなく、新鮮で、しかも、さわやかなものをふっとかんじることがあります。その一つを紹介します。

### 助手席の少女

家の近くを、犬を連れて散歩しているときのことです。狭い道路で、ブルト

会釈されました。トラックの助手席には小学校一年ぐらいの女の子が座っていました。その少女も父と同じように笑顔で頭をコクンと動かしていました。

この少女は、これまで父の仕事を見つめながら父から多くのことを学んできたのだらうと思いましたが、父を誇りに思っているのだらうと。

これからも父を尊敬しながら学び続けることでしょうか。このご家族の幸せな夕餉(ゆうげ)の様子を今でも想像しております。

(砂川校区 清水真治)



後半の方のように、三〇代で神業のような運転技術で、とても危険なところを無事に通り抜けていました。そのとき、待っている私にも優しい顔で



「あなたたちのお父さんが満州に赴任してきて以来、ずっと下で働いてきたら来ました。」と云って、一人の中国人と、一人の韓国人の人が来てくれました。中国人の人は、李明開(リメイカイ)さんと云う人でした。彼の話によると、「あなたたちのお父さんが満州に赴任してきて以来、ずっと下で働いてきたら来ました。」と云って、一人の中国人と、一人の韓国人の人が来てくれました。

追伸、中国の李明開さん！あなたがもしまだ生きておられるのなら、私たち家族は、心から「ありがとうございます」とお礼申し上げます。



昭和18年撮影。一番小さい娘が私。

## はるかひまわり 西信達でも咲いたよ!

平成25年9月の人権教育講座I【第4講座フィールドワーク「阪神、淡路大震災の記憶」～生きてこそ伝える命と減災～】に参加した時、語り部から「平成7年1月17日、震災当時11歳(小学6年生)の加藤はるかさんが、崩れた自宅の下敷きになり死亡。その夏亡くなった同じ敷地に無数の見事なひまわりが咲き誇り、人々を勇気づけました。「1.17 希望の灯り」～はるかひまわり～としてその種を全国に繋ぎ咲かせ、東日本大震災被災地にも繋がり、人々に大きな希望を与え、勇気づけているとの説明と共に、10粒の種を貰いました。西信達小、中学校の草花の手入れをされている大家清美さんと先生方にその種を託し今初夏、見事に咲いてくれました。来年も咲いてくれるかな…。詳しくは、インターネットで、「はるかひまわり」を検索してください。(西信達校区 東 佑吉)



## いほち っってどんなまち?

企画実行委員会とおしゃべり会のメンバーで、人権のまちづくりについて話し合いました。まずは“いほち”ってどんなまちかを出し合いました。

- \* 思っていることが言えるつながりのあるまち
- \* 市民の声が行政に届きやすいまち
- \* 福祉が充実したまち
- \* 安全・安心のまち
- \* 人権が守られるまち
- \* 親切があふれるまち

子どもたちが、ずっとずっと住み続けたいまちはどんなまちかを、これからも話し合っていきたいと思います。(次号へつづく)